綴・一葉

安東家

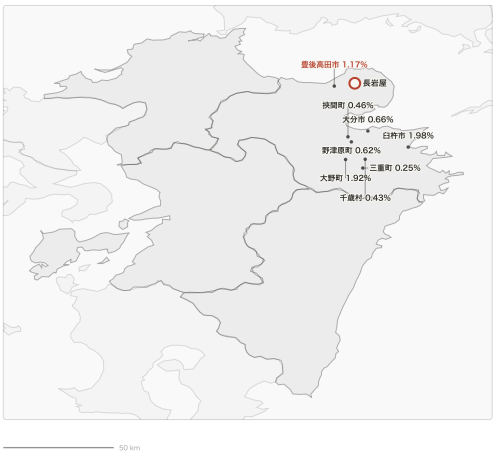
本籍　大分県豊後高田市長岩屋　旧　西国東郡西都甲村大字長岩屋　／　江戸時代　豊後国国東郡長岩屋村

2026年10月5日

見本　家の名と本籍は架空　資料と調査内容は実在

安東という名字の広がり

安東姓は全国に約1万6,700人おり、都道府県別では大分県が最も多く、約4,600人です。豊後高田市には約300人が暮らしており、本籍地の長岩屋がある都甲の谷にも、安東の家が続いています。県内で安東姓の分布密度が高いのは、南部の臼杵市と大野町です。豊後高田市がこれに次ぎ、本籍地から約9km離れた場所にも、安東姓が集中する土地があります。



大分県と、隣接する福岡県・熊本県・宮崎県における安東姓の分布を示しています。朱色は、本籍地のある豊後高田市を表します。姓の分布は県境で区切られないため、隣接県も含めて一枚の地図にまとめています。

本籍地の周辺で安東姓の世帯が多い市町村（2000年時点）。割合は、各市町村の全世帯に占める安東姓の世帯の割合です。

市町村	世帯	割合	本籍地から
臼杵市	192	1.98%	約55km
大野郡大野町	34	1.92%	約60km
豊後高田市	60	1.17%	約9km
大分市	512	0.66%	約38km
大分郡野津原町	9	0.62%	約46km
大分郡挾間町	15	0.46%	約42km

長岩屋という土地

長岩屋は、国東半島の中央部に位置し、両子山から西へ流れる都甲川の上流にある谷です。『西国東郡誌』には、長さ一里あまりの峡谷に数百丈の絶壁が並ぶ土地として描かれ、「都甲耶馬」と呼ばれていたことが記されています。弘安8年（1285）の豊後国図田帳には、長岩屋を含む七十町の都甲荘が、宇佐弥勒寺の領地として記載されています。江戸時代には島原藩（松平氏）の領地となりました。明治8年（1875）には、旧都甲荘の10か村をまとめて都甲村と称しました。その後、明治22年（1889）の町村制により西都甲村の大字となり、昭和29年（1954）に豊後高田市となりました。

村の寺と行事

長岩屋村の寺は、天台宗の長岩屋山天念寺です。本籍地から約0.6kmにあり、六郷山の寺の一つに数えられています。天念寺で正月に行われる修正鬼会は、昭和52年（1977）に国東の修正鬼会として国の重要無形民俗文化財に指定されました。本籍地から約0.9kmには、同じく天台宗の金剛山長安寺があります。

家の来歴

長岩屋の安東家は、鎌倉時代から記録に現れる都甲の谷に住み続けてきました。この谷の天念寺は、六郷山の寺の一つとして記録されています。戦国時代には、本籍地から約9km離れた佐野で、同じ安東姓の人物が大友方として鞍懸城の戦いに加わりました。江戸時代には、佐野で庄屋を務めた安東家も続きました。長岩屋の安東家は、こうした複数の系譜につながる家です。

綴・一葉について

この資料は、戸籍をお預かりする前の段階で、刊行された記録のみをもとに確認できる事柄をまとめたものです。これをさらに掘り下げ、一冊にまとめたものが「綴・見立帖」です。「綴・見立帖」では、名字の分布を字ごとに詳しく調べ、菩提寺と考えられる寺院を挙げます。さらに、江戸時代の村や家に関する記録から、中世・戦国時代の記録まで幅広く調べます。

> 安東姓については、天正8年（1580）の鞍懸城の戦いで大友方として戦った安東宮内丞宛ての書状が、高田にある二つの家に伝わっています。また、本籍地から約9km離れた佐野には、江戸時代を通じて庄屋を務めた安東家が続いています。見立帖では、この9通の書状と、庄屋を務めた安東家の記録に加え、本籍地のある長岩屋を含む都甲荘の中世の記録まで調べます。